

# 多世代で共に暮らす 様々な知恵… 道志村の大きな魅力を見直してみませんか？

話し合いの中で、「うわさ話がすぐ広がる」「真実と関係なく枝葉がついて広がる」と言ったことや、「若い者や嫁の立場ではなかなかものが言えない」「よそ者と言われて疎外感を感じる」などの意見が出ていました。その一方、今はコミュニケーションの仕方も変わってきて、姑が嫁にとっても気を使っているという話も出ました。また、別荘に移住した人と、地元の人との交流も一つの課題になっています。そうはいつても、面倒ではあるけれど、やはり伝統的に培われてきた「無尽」「えびす講」「義理」「地類組合」などの集落の慣習が、人と人とのつな

今回の話し合いで、道志村のご近所づきあいを現代化したような暮らしとして、コレクティブハウスの暮らしをご紹介しました。コレクティブハウスは、各々の住まいは独立しているが、大きなダイニング、キッチン、リビングなどのCOMMONルームと呼ばれる共用のスペースをもち、住人自身が組合をつくって自分たちで管理運営をしています。そして、自主運営で特徴的なのは、「COMMONミール」という共同の夕食づくりです。食事を作って食べるという事は、人が生きていく上で毎日必ずやらなければならないことです。しかし、一緒につくったり、大勢で食卓を囲んでおしゃべりをしながらご飯を食べるといのは実に楽しく自然に会話も弾む、良いコミュニケーションの方法です。こんな試みも、道志村の伝統的な良い仕組みを継承しつつ、「ほどよい距離感」を保っていく工夫の一つとして、参考してみてください。皆さんの集落でも、集会所でお試しCOMMONミールやってみませんか？(NPOコレクティブハウジング社 Km)



道志村の人たちの温かい人柄と、親身になって助け合える人間関係は、かけがえのない宝です。そんな宝を大切にしつつ、「ほどよい距離感」の人付き合いという現代的テーマをどのように考えますか？



がりや助け合いの仕組みとして今も残っているからこそ、温かい人間関係、顔の見えるつながりによる安心感があることも確かではないでしょうか。しかし、道志村も、今後ますます高齢化が進み、身近に相談相手がいない一人暮らしのお年寄りや老夫婦のみの暮らしも増えてくることが予想されます。また、「お祭りもなくなり、以前より人も付き合いが希薄になった」という声もあり、改めて道志村の人のつながりの魅力を考えてみる時期に来ているのかも知れません。

<お問い合わせ>  
道志村役場住民健康課  
52-2118まで

- ★コレクティブハウスのDVDを見ての感想
- ・面倒層だけれど、面倒くささがいいのかな？
  - ・みんなが距離感を意識しているから良い関係が保てるのかも
  - ・道志でも、多世代での話し合いの場がほしい。

発行責任者：山口博康  
この事業は平成21年度当初予算に計上された「高齢者福祉事業調査費」により村民・役場・委託事業者の協働作業で行われております。

編集後記:様々な世代の人が様々な思いを持って日々暮らしていること、皆さんが、道志村が大好きなこと、良く分かりました。暮らしやすい道志村づくり、やれることからやっていきましょう!(Om,Mm,Ns)

「世代を超えて安心して暮らせるむらづくり」プロジェクト がはじまりました!

# 道志村未来通信 2



2009年12月1日発行

温かい人に囲まれて、美しい風景と爽やかな自然と共にある道志村の暮らし…でも、今感じている「仕方ない」という思いや将来の不安もいろいろある…年をとること、子育てのこと、後継ぎのこと、仕事のこと、進学のこと、将来の夢…家族だけでなく、村のいろいろな人と語り合い、未来への希望をつないでいきませんか？

## 「世代を超えて安心して暮らせるむらづくり」について いろいろな世代の人どうして話し合いました!

去る10月14日、15日に3つの会合を開きました。前回の話し合いを受けて、まずは似たような立場の人同士で話し合うほうが、意見が出しやすいと言うことで、20代の小さな子どものいる女性、30代の子育て・働き盛りの男女、40~60代の家事も仕事もベテランの女性それぞれに、グループで話し合いました。どの世代も、道志村出身の方、村外から嫁いでこられた方、村外から道志村へ戻ってきた方など、様々な立場の方がいらっしゃいました。話し合いの結果は、見開きページをご覧ください。

### これからの話し合いについて、 いろいろ前向きな意見が出ています!

こうした個別の話し合いから始めて、大きな話し合いへ移行できたらいい。仲間内で話しているだけではだめではないか。

良いものを子どもに継いでいってほしい。

役割分担も含めて、話し合いの場がほしい。心を割って話せる場があったらいい。

郷土の良さを伝える場面がほしい

働きかければ変わる! 発言、実行していける村民がいることが嬉しい。

集会所はあっても、集まる時は、高齢者だけ、子どもだけ等になってしまい、世代の交流がない。

一緒に料理を作るなど、コミュニケーションをとりながら、関係を築いていきたい。

困っていることはきちんと話しをして解決してきた。暗くて危なかったところに街灯をつけてもらったりした。



■身近な人間関係■

<こんなことが不安・大変>

- 20代子育て中女性
  - ・別荘と地元の人ではお互い警戒心が強い。マナーも良くない。(地元の人に良くしてもらっても、黙っていなくなる等)
  - ・プライベートに入り込まれすぎる。噂話がすぐ広がる。
  - ・自治会へは入っていない。地域にもう一步踏み込めない。
  - ・よそ者といわれ、疎外感を感じる。
  - ・嫁としての疎外感を感じることもある。
  - ・同居ではないので、子育てで頼る人がいない不安がある。
  - ・村外から嫁いだ人同士は仲良く情報交換をしているが、地元の人はい少なく、逆に疎外感を感じることもある。
- 30代子育て中夫妻
  - ・近所づきあいが大変。→習慣は、姑のまねをして覚える。
  - ・若い人が少ないので、コミュニティの役が多く大変。
  - ・昔のものを続けるのも大切。でも、世代交代も必要では。
  - ・思っているも周りの目が気になって言い出せない。
  - ・葬儀や消防など、仕事を休まねばならないことも多い。→村外の人には、地域の行事のことを理解してもらえない。
- 40~60代女性
  - ・身内が多いので面倒もある。
  - ・以前より人間関係が希薄になった。
  - ・お祭りがなくなって、関わりが持ちにくくなった。
  - ・今の姑は嫁にとっても気を使っている。コミュニケーションの仕方も変わってきている。
  - ・話に枝葉がついて噂が広がる。噂は言いふらさず、近い人に真相を確認する。

■村の習わし■

<こんなことがうれしい・楽しい>

- 40~60代女性
  - ・えびす講などの昔からの習わしを子どもに伝えたい。
  - ・地域の行事などは子どもの教育に良い。
  - ・姑に道志の習わしやしきたりを教えてもらった。若い時は理解できなかったが、今は正しい考えだと思う。

<こんなことが不安・大変>

- 40~60代女性
  - ・冠婚葬祭が派手で、義理(=お金)が大変だが切ることができない。もらったもの以上に返すのは大変。
  - ・地類組合は末代までと言われ、大変。
  - ・新盆やお彼岸なども大変。
  - ・夫は村外で仕事をしており、地域のことで休んだりすることを会社によく思われていない。
  - ・村外へ勤めに出る夫たちの代わりに、婦人消防隊をつくっては。

<こんなことがうれしい・楽しい>

- 20代子育て中女性
  - ・高齢の方から学ぶことがたくさんある。
  - ・村の人たちに親近感もて、人間関係はつくりやすい。
  - ・子どもと散歩していても何かと声をかけてくれる。
  - ・近所の人子どもをかわいがってくれるのが嬉しい。
  - ・困ったことがあっても、気軽に近所の人に頼れる。
  - ・子どもの面倒を見てくれる人がいる。
- 30代子育て中夫妻
  - ・人口が少ない分、みんなが顔見知りで安心。
  - ・村の人皆が身近に感じられる。
  - ・親類が多いので、頼れる人も多い。
- 40~60代女性
  - ・身内が多いので心強い。
  - ・近所の付き合いはとても良い。
  - ・人が優しくて人なつこい。
  - ・人のことでも親身になってくれる。
  - ・大家族で育つので、子どもの情が深く優しい。
  - ・大家族も良いもの。
  - ・お年寄りや子どもに声をかけるように心がけてきた。

[学童保育のこと]

- 30代子育て中夫妻
  - ・保育園の時間が短い。8:30~4:30(延長は5:15まで)
  - ・学童保育が無い。→親との同居世帯が多く、親に面倒を見てもらっている。
  - ・核家族が少ないため、学童保育を望む声小さくなってしまっているが、頼る人がいないで困っている。
  - ・本当は働き続けたいが、「母親が子どもの面倒を見るのが当たり前」という考え方があるため、「学童に子どもをあずけて働き続ける」という選択肢が顕在化してこない。子どもが1年生になると母親は仕事を辞めることになる。「嫁」の立場として意見を言いにくい。
  - ・H16、H20の住民アンケートでは、5割が学童保育を要望している。
  - ・学童が来年4月から始まるなら早めに教えてほしい。

[子どもの選択]

- ・子どもに帰ってきてもらいたい、子どもは子どもの人生がある。
- ・子どもも道志村に帰りたがっているが、村内に仕事がない。
- ・子どもには子どもの人生を歩んでほしい。
- ・子どもは高校で巣立ってしまう。自分の人生を考えねば。
- ・後継者がいない。家は継ぐものと思っている。
- ・お墓を守る人がいなくなるのは困る。

■子どものこと■

<こんなことが不安・大変>

- 20代子育て中女性
  - ・子どもが遊べる公園や遊具がない。
  - ・自転車はアップダウンが激しい道が多く危険。
- 30代子育て中夫妻
  - ・子どもの数が少なく、教育の不安がある。習い事や塾の選択肢も少ない。
  - ・子どもが障害を持っているため、小学校の支援学級の対応がなければ、道志を出なければならぬ。
  - ・子ども同士で遊ぶにも、親の送り迎えが必要、家の中でしか遊ばず、少人数の遊びになってしまう。
  - ・子ども同士だけのコミュニケーションがとれない。→学童保育の必要性あり。
  - ・村外の高校に通うので、地元との関わりが減る。
- 40~60代女性
  - ・今の子どもは忙しくて自然の中で遊ぶ機会がない。
  - ・子どもが川で遊ばなくなった。釣り客と揉めた。
  - ・昔は中学生が小学校に行き交流する機会があった。
  - ・小中学生も村外に出られる機会があると良い。



- ・身につけた専門職を活かす仕事がない。
- ・東京では仕事になることも、ここでは難しい。
- ・村内で仕事がしたいが、村内には仕事がないので村外で働くしかない。
- ・仕事があれば村に帰ってきたい人は結構いる。
- ・仕事をしたいが、子どもが帰ってくる頃に終わる仕事はみつからない。
- ・高校で大学進学クラスに入れば、東京に進学し、村には戻ってこない。
- ・働く場がないので若者が戻ってこない。→子どもが増えない。

■仕事のこと、進路のこと■

■自分らしく生きること■

- 30代子育て中夫妻
  - ・自分の趣味の選択肢が少ない。
- 40~60代女性
  - ・子育てが終わって、今度は自分のことを考えねば。
  - ・自分の行き方を思うだけで、実行することは難しい。日々の暮らしと仕事に追われている。
  - ・自分なりの楽しいことをこれから探していきたい。

[自分の時間]



<こんなことがうれしい・楽しい>

- 40~60代女性
  - ・小学校は人数が少なく、家庭教師のような環境で良かった。
  - ・中学校も小さく、一人一人に光が当たるのが嬉しい。
  - ・多世代の家族で暮らしたことで子どもが優しく育った。
  - ・孫が遊びに来てくれるのが嬉しい。

■生活基盤について■

- ・車の運転ができなくなるのが不安。
- ・路面が凍結すると送迎ができない。
- ・何処に行くにも峠を越えねばならない。
- ・バスの運賃が高く、自前での送迎になる。以前は通学の補助があった。
- ・共働きだと子どもの送迎ができない。
- ・雨量により通行止めになることがある。
- ・ガソリンが高い
- ・子どもの緊急時に病院がない。
- ・歩道が無くて危険。
- ・買い物するのに村外に行く。
- ・おかずを買えるような場所がない。